

金子兜太さんの戦争

俳人・小川町生まれ

現代俳句の第一人者金子兜太（かねこ・とうた）さんは、1919 年小川町生まれです。皆野町で育ち、熊谷高校から東京大学卒業後、日本銀行に入行し定年まで勤務しました。その間、俳人加藤楸邨に師事し、郷土秩父の自然や人間の本能的な思いを表す前衛俳句の旗手として活躍しています。現在熊谷市在住。「毎日新聞」埼玉版「埼玉ひと物語」というシリーズが、金子さんを取り上げていました。「戦争の罪滅ぼしがしたい」と題された記事を紹介しします。

人間が目前で死んだ
俳人、金子兜太さん（91）は、柔和な表情を一変させた。「人間が目前で吹っ飛んで死んだ。もう、考えるなんてできなくなるんだよ」1944年3月、西太平洋のミクロネシア・トラック島。主計中尉として第4海軍施設部に配属された。戦況は悪化の一途だった。部隊は武器を手作りすることを考

え、仲間の男性が試作品の手りゅう弾を投げた。爆発の瞬間。男性の右手が吹っ飛び背中肉がえぐれた。即死した男性を病院に運んだ。「数人で担ぎ上げた。私は周りを「わっしょい、わっしょい」と言ってるから病院に運んでもしょうがない、無駄だなんて思わなかった。勝手に体が動いていた」

「死というものが理屈なく自分に迫ってきた。死ぬということがいかに重大なことか。戦争はいかに残酷か、悲惨か。それ以来、死ちゅうものを非常に重く考えるようになりました」
終戦の空しさ
1945年、25歳の時に島で終戦を迎えた。心にわいたのは安堵でなくむなしさだった。食糧調達の実行者だった自分の前で餓死していく仲間。

Only One Road

戦争の罪滅ぼしがしたい

俳人・金子兜太さん 2

埼玉ひと物語

「人間の罪滅ぼしがしたい」と題された記事を紹介しします。

金子兜太さん（91）は、柔和な表情を一変させた。「人間が目前で吹っ飛んで死んだ。もう、考えるなんてできなくなるんだよ」1944年3月、西太平洋のミクロネシア・トラック島。主計中尉として第4海軍施設部に配属された。戦況は悪化の一途だった。部隊は武器を手作りすることを考

え、仲間の男性が試作品の手りゅう弾を投げた。爆発の瞬間。男性の右手が吹っ飛び背中肉がえぐれた。即死した男性を病院に運んだ。「数人で担ぎ上げた。私は周りを「わっしょい、わっしょい」と言ってるから病院に運んでもしょうがない、無駄だなんて思わなかった。勝手に体が動いていた」

「死というものが理屈なく自分に迫ってきた。死ぬということがいかに重大なことか。戦争はいかに残酷か、悲惨か。それ以来、死ちゅうものを非常に重く考えるようになりました」

と冷静な半面、「どっちみち戦争に行くんだったら勝つしかない。勝つために全力投球でやってみよう」と

3日で辞めて海軍経理学校に入った。希望地に「南方第一線」と書くほど血気盛んだった。「生産力で圧倒的に劣る日本は負けるだろう」

戦争は残酷で悲惨
兵士を志し、日銀を3日で辞めて海軍経理学校に入った。希望地に「南方第一線」と書くほど血気盛んだった。「生産力で圧倒的に劣る日本は負けるだろう」

第五回記念 愛と自由そして平和 おがわ町民コンサート

10月16日(土)2時開演 パトリアおがわ

ご出演の皆様

- 大塚秀子(ソプラノ)
- 大塚幸穂(チェロ)
- 大導寺俊平(ピアノ)
- 遠藤ひとみ(オカリナとケーナ)
- ハッピートリオ (みんなで歌おう)
- 岡部上 岡部洋子(")



小川町に住み、また縁のある音楽家のみなさまによる音楽会をお願いして、このコンサートを始めたのが五年前。「小川町にこんな素晴らしい音楽家の方が・・・」の驚きと、熱演への感動が感動を呼び、今年第五回を迎えました。会を追うごとに期待が高まっています。「平和だから歌える、故郷で奏で歌え、聴ける喜び」を皆さんで分かち合ひましょう。

■チケット(開催協力券) 1000円(当日+200円) 高校生以下・障害者 500円
主催 おがわ町九条の会 後援 小川町 同教育委員会
問合せ 実行委員会事務局 TEL 0493-74-2027

バスでお越しの方は 12:45、13:45 (小川町駅発東秩父行) をご利用下さい。



金子兜太さん（小川町生まれ）の戦争

「戦争の罪滅ぼしたい」——毎日新聞の記事から



現在の金子兜太さん

【要約・小見出しは編集部】

「戦争に対する罪償いをしたい」ところが、句は体の中に自然にわいてきた。終戦後1年3カ月の島での米軍捕虜生活でも俳句が浮かんでくる自分をとめられなかった。「やめようと思ってもできず」引き揚げ船で日本へ帰る時、頭の中に俳句がたまっていった。「このまま忘れるのもつたない気がした」薄い紙に句を書き留めると、配給されたせつげんに小さな穴を開けて詰め込んだ。その記録からできた初めての句集「少年（1955年刊）」は、現代俳句協会賞を受賞した「戦争に対する罪償いをしたい」。戦後65年たってあせることのない思いだ。

【一面からの続き】
そして、手りゅう弾の実験。「自分が非常に軽薄な人間に思えた。なんでもくたねえ野郎なんだ。今までの罪滅ぼしをしなくてはいいかん。出直さなくちゃいかん」。島で書いた日記やメモなどを全部焼き捨てた。俳句も、軽薄さの代表のように思えた。「おつづくるまへ」と決心した。

九条の会 ニュース

全国 7000 を越える「九条の会」が活動しています。近隣のもの、遠くのもの「九条の会」の昨今をお伝えします。

「嵐山町九条の会」ゲゲゲの女房によせて

旧聞ですが、5月30日、嵐山町中央公民館で元高校教諭滝澤民夫さんによる「ゲゲゲの女房に寄せて～水木作品にみる戦争体験」と題する講演会が開かれました。折からの朝ドラでの人気もあって40名の参加者が、時にユーモアを交えた滝澤さんの口調に、漫画を通して、平和を考える素敵な機会を得ることができました。（「嵐山九条の会だより」から）



「みやぎ農協人9条の会」が結成されました

8月31日、宮城県内の農協組合長経験者ら30人が、「みやぎ農協人9条の会」の設立総会を開催、「会」を結成しました。

「会」結成まで約3年の準備をかけ、議論を重ねて来ました。結成アピールは、日本の基幹産業である「農業」を発展させる立場と「平和を希求する」立場を統一してとらえ、「民主的で公正な社会をめざし、“ひとりは何人のために、万人はひとりのために”とうたった協同組合の理念は世界の平和に通じ、戦争こそ農協と農村を破壊する最たるもの」とのべ、広く農協・農業関係者に参加を呼びかけています。

総会后、会長に選出された阿部長壽さんは、記者会見で「平和な世の中でこそ農業は発展できる。日本の食糧自給率は4割にとどまり、食糧の危機管理上も平和は大切であり、憲法を変えてはいけない」と語りました。（「九条の会ニュース」<http://www.9-jo.jp/>から）



「小川町平和のための戦争展」から 2

前号の「たより 49号」でお知らせした通り、この夏「小川町平和のための戦争展」が開かれ、延べ730名の参加があったそうです。今回、寄せられたアンケートの一部を、実行委員会のご厚意により掲載させていただきます。

- 戦地からの手紙を読んで胸が痛くなった。戦争というつらい現実の中でも家族を思う気持ちが痛いほど感じられた。今核家族とかいわれ家族のきずなが弱くなっていてあらためて家族の大切さなどを考えさせられました。（高校生）
- 日本という国は戦争を止めている。もうしないと約束した。それだけでも良いことをしているのだと思う。それを裏切って戦争をするというのなら、日本はどこまでも悪い国になってしまう気がする。（高校生）
- 沖縄のことだけではなく、日本全体の問題としてとらえないと、いつまでも米軍は沖縄に居座るだろうから、埼玉にあてはめたことによって基地の問題についてより実感を持つことができた。
- 熊谷爆撃とポツダム宣言（受諾）が同時であったことは初めて知りました。本当にあと1日早ければ被害を少なくできたはずなので残念です。
- 素敵な調べに感謝します。どの朗読も心に残る物でしたが、特に小さなお子さん、中学・高校生の参加は感動です。
- 選曲も大変良く楽しめました。幸穂さんのトークもユーモアがあり花丸です。
- 生と死を感じ、戦争の無意味さを思い、平和の世界に生活できる事いつまでも祈ります。
- 実行委員の皆さんご苦労様でした。「継続は力」という言葉がありますが、今後もぜひ続けて下さい。

9条サロン

尖閣諸島問題

近ごろ東シナ海が荒れ模様です。尖閣諸島をめぐる日中両国の対立です。近年は日中友好ムードが続いていますが、中国が日本経済を潤すなどのニュースが目につけています。それが、中国漁船船長の逮捕で一気に冷え込み、日中交回復後最悪の空気があたりを覆いました。

日本は船長の身柄を処分保留のまま釈放しましたが、釈放の可否は別としても「那覇地検の次席検事」が外交的配慮云々と釈放理由を述べたのには違和感を覚えます。

問題が起こってからの中国側の強硬な姿勢にはいささか驚きました。これを機に両国で盛り上げるナショナルリズムの感情の高まりが気になります。日本側では、自衛隊の増強を求める動きや日米安保の必要を喧伝する動きに注意が必要で、それは必然的に憲法九条改悪の動きに拍車をかけることになるからです。

尖閣諸島は明白に日本の領土です。現在の国際法のルールを認めるかぎり、自国領だとする中国の主張には無理がありません。しかし、中国が日本の主張をすぐ認めることはないでしょう。この問題は双方の主張が対立したまましばらくは片づかないと思われまふ。こういう中で、中国の強硬姿勢に軍事的な対抗措置で応えることだけは避けるべきです。あくまでも道理に基づく話し合いによって解決する基本を貫くべきです。どんなに長引き、難しくても・・・。

（R）
皆さんはこの「尖閣諸島問題」にどんなご意見、感想をお持ちですか。ぜひご投稿をお願いします。